

出羽三山信仰事業「羽黒山伏 臥牛(がぎゅう)」像建立プロジェクト実行法人

一般社団法人出羽三山羽黒山伏会 会長 田代貢一 他 理事・監事並びに都道府県支部長実務担当役員一同

【趣意書】

平成から令和の新しい御代へ替わり、この佳節に当法人では、主要な出羽三山信仰事業に於いて、日本遺産「生まれ変わりの旅」出羽三山への出発点の羽黒山「随神門」の門前町に、羽黒修験道の修験者である「羽黒山伏 臥牛」の像を建立するプロジェクトを推進することになりました。

「羽黒山伏 臥牛」の像建立プロジェクトは、出羽三山に連綿する羽黒修験道の世界をシンボリックにご紹介するに於いて、まことに意義あることとございます。折しも日本の観光地には大勢の訪日観光客が押し寄せており(「4000万人の訪日外国人客数、観光収入8兆円 2020年政府達成目標」)、「西の伊勢参り(伊勢神宮)」と並び称される「東の奥参り(羽黒山)」の出羽三山周辺も、この恩恵に浴する事象がございます。こうした時宜を得た「羽黒山伏 臥牛像の建立プロジェクト」は、新たな観光スポットとして観光浮揚の地域活性化へ直結しますこと確信できることとございます。

当プロジェクトの具体化には、「羽黒山伏臥牛像の本体制作」と「プロジェクト資金確保の勧進」の実行プログラムへステップアップし、プロジェクトの実現成功に向けて積極的に前進しなければなりません。

何卒、斯様な当法人の出羽三山信仰事業「羽黒山伏 臥牛(がぎゅう)」像の建立プロジェクトの「趣意」を皆様よりご理解下さいまして、万般のご協力を頂きますよう切にお願いを申し上げます。

「羽黒山伏 臥牛 像建立プロジェクト資金確保の勧進」概略

- ・ 建立場所 羽黒山「随神門」門前町内
- ・ 建立像制作完遂時期 令和元年秋頃を予定
- ・ お問い合わせ先 一般社団法人出羽三山羽黒山伏会 本部事務局
〒998-0054 山形県酒田市宮野浦 1-14-11 内 電話 0234-41-0383 FAX0234-41-0383

・ 資金確保の勧進ご協賛の方法
※ご協賛頂きました皆様の御芳名を建立の「羽黒山伏 臥牛」像の台座銘板にその名を刻し、当像と共に永遠にご協賛の御心を伝承することに致します。

趣意書に記しました通り、連綿と受継いだ羽黒修験道の象徴である「羽黒山伏 臥牛」像を建立するプロジェクトを推進することになりました。すべての完遂は今秋と予定しておりますが、一連の事業を滞りなく進めるためにも、賛同して頂ける皆様の御協力を是非ともお願い申し上げます。つきましては協賛金を募りたくご案内申し上げます。協賛の金額の口数に制限はございません。

法人一口5万円より 何口でも可 個人一口1万円より 何口でも可
ご協力いただける法人・団体や個人の方々には、下記要領でご案内しております。

次の金融機関への口座お振込みにてお願いを致します。
御振込先金融機関名 振込口座名 口座番号 クラウドファンディング宛
皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。 以上

羽黒修験道 修験者「羽黒山伏 臥牛」由来

日本固有の山岳信仰を奉じ、出羽三山を修験の場にする「羽黒山伏 臥牛(がぎゅう)」吹螺の迎え法螺。臥牛山は月山の別称であり、里から見ると牛が臥しているような山容から付けられたものか。古来より出羽三山は、羽黒山「現在」、月山「過去」、湯殿山「未来」の三世の関を越え、死と再生の果を得る羽黒修験の霊地である。羽黒修験者の多くは被髪であり、兜巾(とぎん)を戴き、太多須嬉(ふとたすき)および摺衣(すりごろも)を着け、笈(おい)を背負い、金剛杖(こんごうづえ)をつき、法螺(ほら)を鳴らして出羽三山を駆け巡る。こうした過酷な修行を己に課して霊験を修得する面目こそが羽黒修験道の神髄である。

「羽黒山伏 臥牛(がぎゅう)」像の建立構想ピックアップ

- (1)設置場所としては、山形県鶴岡市羽黒町手向「随神門前駐車場」周辺を予定する。鶴岡市羽黒町手向「随神門前駐車場」(鶴岡市所有地)は、羽黒山門前町の集落の外れにあり、遠い防風林の景観であることから、当地特有の極低温や豪雪と暴風雪、真夏の炎暑、そして大型台風や集中豪雨に耐え得る様な強靱な内外構造の設計その塗装被膜が必要ではないか
- (2)「羽黒山伏 臥牛」像のスケールは、等身大の二倍以上のスケールインパクトが欲しい点を考慮し、「羽黒山伏 臥牛像」の高さは、像本体を4m、台座を2m、像全高が6mサイズを具体的に検討すべきではないか
- (3)原型制作の素材は、大型造形物の制作であり、制作コストの低減が重要であり、将来的なメンテナンスの関係からもFRP加工の立体造形物がベストではないか
※FRP(Fiber-Reinforced Plastics の略称)は繊維強化プラスチックと言われ、ガラス繊維、炭素繊維などの繊維をプラスチックの中に入れて弾性を増し、強度を向上させた複合材料のこと。
・ 軽い⇒重さは鉄やステンレスの約1/4 ・ 強い⇒比較強度は鉄の約2倍 ・ 錆びない、腐らない⇒鉄のように錆びず、耐薬品性に優れている
・ 自由な形状⇒鉄では表現できない自由な曲線 ・ 用途⇒航空機・自動車・医療機器・住宅設備・船舶・スポーツ器具、遊具など広汎な分野
- (4)「羽黒山伏 臥牛」像の原型色は、設置場所付近の朱塗り随神門や背景に聳える羽黒山の山肌映えて連綿する羽黒修験装束の地色の群青色を再現したい
- (5)「羽黒山伏 臥牛」像の姿形は、左手に八角の金剛杖を力強く握り締め、右手には法螺貝を持ち、その吹螺口を咥えて6m真下の羽黒街道を頻繁に通る羽黒詣で「(西の伊勢参り(伊勢神宮)・東の奥参り(羽黒山))」の大型観光バスに向かい「迎え法螺(日本遺産の出羽三山へようこそ!と歓迎する意味であり、歌舞伎役者が大見得を切る様の力強い目力と頬を一杯に膨らませて吹螺する懸命な形相である。こうした懸命な迎え法螺であれば、自ずと体が腰から折れ曲がるほどの動的なインパクトになる)」を表現したい。また像本体に内蔵の骨伝導スピーカから鳴り響く羽黒山伏臥牛の「迎え法螺」は羽黒修験の秘密世界を端的に現出させてくれることとなる
- (6)台座の最上部は月山の巨大な岩塊をイメージすることとして、そこに仁王立ちする力強い「羽黒山伏 臥牛」像が下界を睥睨(へいげい)する如くの畏怖感を表現したい。その台座正面中央部には、羽黒山伏像の銘板(「羽黒山伏 臥牛(がぎゅう)」と命名した羽黒修験由来の山伏名を記す)を嵌め、その台座裏には、像建立にご協賛を頂戴した方々の御芳名銘板(ご協賛金額面毎に都道府県市町村と御芳名を記し、当羽黒山伏像と共に出羽三山大神への篤信のご精神を永遠に称えることとする)を嵌める。同様に「羽黒山伏 臥牛」像の建立事業を積極的に推進した当法人実務担当役員全員の名を記した銘板(実務担当役員の役職名、出身地都道府県市町村名、役員氏名を刻し「羽黒山伏 臥牛」像と共に永遠にそのご功績を讃えることとする)を嵌め、更に正面台座脇には、羽黒山伏像の「由来書板(日本語・英語・中国語・韓国語)」を土中に深く差立てる。そして羽黒山伏 臥牛像の両脇には大幟旗二旗(幟全体に当法人の会旗色の濃紺・紅花色・白の3色市松模様を染め抜き、幟旗上部には羽黒山伏の守護獣獅子紋を躍動的に配置し、その下中央に「羽黒山伏 臥牛」像名と当法人名また建立年月日を印した建立幟旗)を幟台座に建て置くこととしたい。そして羽黒山伏像前で記念写真の撮影をするスペースや小休憩用ベンチも併設することとしたい。建立羽黒山伏像前へ隣地駐車場から移動する通路部分には、平板敷石を3列程並べ置き歩道とし、高齢者の転倒防止にも考慮する
- (7)この「羽黒山伏 臥牛」像の全姿形は、頭部は被髪であり、その額に頭巾(とぎん)を戴く。その頭巾紐を歌舞伎役者が使う頭巾紐に似せたデフォルメタッチとしたい。像の装束は、羽黒山伏の正装である白上衣に括袴(くくりばかま)、膝から下に濃紺の脚絆(きゃはん)を巻き、白足袋(しろたび)に八目草鞋(やつめわらじ)を履く。そして足首に和紙で作った剣先(けんさき)を巻き、災難消除の呪いをかける。白上衣に「摺衣(すりごろも=羽黒山伏特有の行衣であり、全体が濃紺色の市松模様(いちまつも)ように染め抜かれ、その大袖裏表と背中には羽黒山伏の守護獣の吠える獅子紋が躍動的に染め抜かれている)」を重ねる。その腰には鮮やかな朱色の螺納(かいのう=今風の登山用ザイル)を巻き、括袴の腰帯に御神鈴を巻き下げて霊域の神聖性を醸す。そして山伏修行の最重要な行具である「笈箱(おい=おいばこ=自分の魂の入れ物・棺桶。また一度死んで再び生まれ変わる羽黒修験道の極致へ迎える仏教思想「擬死再生(ぎしさいせい)」の体現であり、その新たな命が宿る母の胎内とされている)」を背負い、首に掛けた太多須嬉(ふとたすき)を胸につけて八角金剛杖(はっかくこんごうづえ)を握り法螺貝(ほらがい)を咥えれば、羽黒山伏の正姿形となる
- (8)「羽黒山伏 臥牛」像の顔部は、当初、ファンである歌舞伎役者の市川家第13代市川海老蔵が勧進帳で弁慶役を演じ「大見得」を切るイメージを描いていたが、「兵庫県福崎町の天狗シリーズ」の造形像を拝見してからは、当法人構想中の山伏像の顔部も、第一回全国妖怪造形コンテスト最優秀賞「天狗像」、辻川山公園設置の空舞う・逆さ天狗、哀愁漂う「サラリーマン天狗」などと、デフォルメタッチの造形像が感動的であるとして構想を改めたところである。この点については当法人の役員間や建立地関係の出羽三山神社の神職や羽黒山門前町の手向地区の方々にも侃侃諤諤の多様な意見はございませうが、先ずは前述の福崎町天狗シリーズを参考にし制作立案をしたい。奇しくも天狗シリーズの天狗の形相は、出羽三山御開祖の「蜂子皇子(はちこのおうじ=蘇我入鹿により刺殺された第13代崇峻天皇の第一皇子であり、その危害がご自身にも迫ってきたことから従弟帝の聖徳太子に薦められ、奈良の都を逃れ京都の由良湊から日本海に船出して奥羽の地の由良の浦に上陸、そして現在の山形県羽黒の里へ辿り着いた。後、出羽三山の御開祖となる)」の形相に相似ではございませうか
- (9)斯様な「羽黒山伏 臥牛」像の構想イメージを現実化する「模型作り」のデザイン等を専門業者へ早急に依頼したい。後、当法人役員はもとより、出羽三山神社、その関係組織「氏子総会、祝部総会、羽黒手向宿坊会」、羽黒山門前町手向地区の方々への建立構想のご説明。そして山形県庄内総合支庁建設部「道路管理課」や鶴岡市役所都市計画課「景観条例」への許諾行政手続き、「日本遺産出羽三山」所管の山形県教育庁、県市観光機関やマスコミ等へのご紹介活動を積極的に推進して参りたい
- (10)そして当プロジェクト実現の最重要な事業資金の確保には、日本全国よりインターネットを活用して募金するサービスシステムのクラウドファンディング手法を活用しその提供サービス企業複数社、との打ち合わせを急ぐ手順で進めて参りたい
- (11)このような構想実現の制作的手続きは、先ずはデザインの決定、そして後の「模型作り(建立像小サイズ原型作り)」を経て、愈々「建立像実サイズ原型制作」ステップへと進めていく手筈かと考えて居りますが、当方、造形制作上の無知での構想のことから、制作的な検討漏れが多々あることは間違いございませう。が、造形物製作会社より専門的なご提言を頂戴しながら、この構想の実現化へと必死に漕ぎ着けて参りたいと存じております



日本遺産 自然と信仰が息づく生まれ変わりの旅 出羽三山
羽黒修験に集いし輩の集団 一般社団法人出羽三山羽黒山伏会

本部事務局 〒998-0054 山形県酒田市宮野浦 1-14-11 Tel(0234)41-0383 Fax(0234)41-0383
E-mail HAGUROYAMABUSIKAI@hotmail.co.jp Homepage <http://haguroyamabusi.sakura.ne.jp>